

1、CW運用 Q&A...こんなときどうする？

さて、今回はCW運用を始めると必ず遭遇するトラブルや、疑問を集めて、そんなときどうすればいいのかのヒントをご紹介します。ただしここに書いた回答はあくまでも一例にすぎません。いずれも実践を通じて身に着けて、臨機応変に対応できるようになってください。

周波数はだれのもの？

あなたはA局のCQに应答してA局とQSOをしました、73を交換して交信が終わったとホットする間もなく、同じ周波数でB局があなたをコールしてきました。A局がCQを出していた周波数ですから、そのまま应答してしまってもいいのか迷いますよね。本来「周波数の占有権」(FMでのチャンネル権)などというものは存在しないのですが、コンテストや混雑したバンドでクリアな周波数を確保するのが難しい状況では最初に使っている局(このばあいA局)に配慮すべきでしょう。

対応例1: B局のあなたへの呼び出し直後A局から特に反応がなければ、あなたはB局に应答する。もし、A局がその周波数を引き続き使いたければ、B局のあなたに対する呼び出しを無視してCQを出し始めたり、PSE QSY(周波数を移動してください)と打ってくるでしょう。逆に、CL (Closing station 閉局しますという意味) や GA (Go ahead どうぞ (この場合、どうぞ使ってという意味))と言って周波数を譲ってくれる場合もあります。譲ってもらった場合はTU (Thank you) とお礼を言ってからB局に应答をすれば気持ちよくQSOが続けられます。

対応例2: B局の信号がA局にはスキップして入感していない場合もあります。逆にあなたには入感しないC局がA局を呼んでいるかもしれません。そんな状況で、A局の反応がないこと = 周波数を譲ってくれたと思い込んでB局に应答し始めると、同じ周波数で2つのQSOが始まってしまったりして厄介なことになる可能性があります。そういう問題を回避するには、呼ばれたら自分がQSYすることです。比較的すいているバンドならQSY UP1 (1KHz アップしてください) など打ってQSYしてB局をコールします。混んでいる7MHzなどではUP1 など打って1KHz 上にQSYすると、そこには既に先客がいることが多分に考えられますので「QSY UP E E E E」と短点を連続送出しながらゆっくりダイヤルを回し、B局を誘導する方法もよいでしょう。ただその周波数で既に交信している局がいれば更に上に周波数を変更します。そして「QRZ? DE ***」と交信に入れればいいかと思います。QSYした先の周波数が使われているかどうかは「QRL?」と送出して確認する方いますが、周波数確認に手間取っていると相手が迷子になってしまうかもしれません。特にあなたがQRPの場合、あなたが動いてしまうとB局はあなたを見失ってしまう可能性が高いことを念頭に入れておくべきでしょう。

(注1:この場合 QSK(フルブ레이크イン)で常に他局に混信を与えていないか聞きながら周波数移動すると良いでしょう。注2:周波数を下げる場合は QSY DWN または

DN です。)

対応例3: A局に少し遠慮しつつも、QSYしたりするのが難しいと判断した場合は「BK QSL UR 5NN BK TU」だけでも交信としては成立しますので RST レポートの交換だけで終わっても良いでしょう。あなたがQRPPの場合はQSYするよりもこの方法が無難かもしれません。

対応例4: QSOを望まなければ、B局の呼び出しに回答しない、または「CL E E」と意思表示して自ら引込んでしまってもかまいません。回答するかどうかは呼ばれた側に決定権がありますので、あなたがA局とのQSOで満足してB局とQSOしたくなければあなたはべつにB局の回答に答える義務はありません。余談ですが、あなたがCQを出している場合も同じです、あなたのCQに対して呼んできた局の中からどの局に回答するかはあなたの自由です。CQに対して「R R de JA * * *」と変な呼び方をしてくる局や、いきなり和文で話しかけてくる局、指定を無視した局などに回答する必要は全くありません。



Key point !

GA = どうぞ! (このチャンネル使っていいよ)

2nd QSO の話題に困る?

7MHz バンドなどでアクティブにCQを出すようになると一度QSOした局から呼ばれるようになります。2nd QSO も 1st QSO とおなじラバースタンプではつまらないですね。でも英作文の堪能な方ならいざしらず、大多数の日本人ハムは電話モードのように自由に話ができず歯がゆい思いをするものです。そういうときに備えて、2nd QSO 用のラバースタンプ例文を準備しておきましょう。

最近では1st QSO でリグやアンテナの紹介もしないことが多いようですから、リグやアンテナ、電鍵などの少し細かな紹介だけでも 2nd QSO の話題としては十分ではないでしょうか。さらに、季節の話題、年齢や仕事、郷土の話題、など短くて簡単な単語でいくつか文章を用意しておくとい良いでしょう。これはDXとの交信時にも役立ちます。自分で考えたことを簡潔な英文で表現して準備しておきましょう。DXと単なるレポート交換だけでないQSOができたときの充実感はまた格別なもので、そういう経験を重ねることでレベルアップします。

残念ながら日本人同士では言語の問題があり欧文モールスで chat (チャット = おしゃべり) できるケースは非常に少ないのが現状です。たとえあなたが英語が得意で自分だけ欧文でパラパラと送信しても、相手も同レベルの英語力がなくてはお話しが一方通行になって楽しい chat はできません。

文法は二の次、中学生で習った文法知識で十分です。あとは単語を並べるだけでもかなり通じますから、思いきって試してください。

簡単な文例

()は省略できるもの、[]は直前の語の代わりに使えるものを示す。

- ・ またお会いできて大変うれしいです I m very pleased [glad] to see you again
(AM) VY PSED [GLD] (TO) CU AGN
- ・ 今日はローカル局のように強力に入感しています。ダイポールアンテナからビームアンテナに変更しましたか？ Today, your strong signals coming in like local. Did you change your dipole antenna to beam antenna?
TODAY UR STRONG SIGS CMG IN LIKE LOCAL, CHANGED UR ANT FM DP TO BEAM?
- ・ 私のQTH福島は東京から北約250^キのところにあり、磐梯山のふもとからQRVしています。 My QTH Fukushima is located about 250Km north of Tokyo and QRV from foot of Mt.BANDAI
QTH FUKUSHIMA ABT 250KM NORTH FRM TOKYO ES QRV FRM FOOT OF MT.BANDAI
- ・ 私は18歳学生です。CWは最近始めたばかりです。 I m a student and my age is 18 years old. I just started CW operation recently.
AM STUDENT ES AGE 18 YRS, I JUST STARTED CW OPERATION RECENTLY.
- ・ 私は電力会社のエンジニアです I m an engineer working for a power company
AM ENGR WRK FER PWR COMPANY
- ・ 2 [3、4] 回目の交信です This is our second [third/fourth] QSO
THIS IS OUR 2ND [3RD, 4TH] QSO
- ・ 以前にQSOしたように思います。ちょっとログをためてみます(お待ちください)。はい 前回は1999年5月25日に交信しました。 I guess that we worked before, but I ll check my log, please wait [QRX] Yes last QSO was on 25 May 1999)
GESS WKD B4 BUT WL CHECK LOG AS AS [QRX] YES LAST QSO (ON) 25 MAY 1999
- ・ 朝食 [昼食 / 夕食] の時間なので失礼します
I m going to QRT for breakfast [lunch/dinner]
AM GG TO QRT FER BKFAST [LUNCH/DINNER]
- ・ XYL が呼んでいるので失礼します I m sorry but I have to QRT, because XYL [my wife] is calling me)
SRI I HVE TO QRT CSE XYL [YF] CLG ME



Key point !

話題を広げる簡単な例文を準備しておこう

ローマ字でもいいですか？

英単語が思い出せないときや、欧文で話が通じないときに試してみたいのがローマ字です。邪道という方もいますが、ローマ字ならば日本語をそのまま欧文モールスで送信できます。

ローマ字送信で注意すべき点は、英語ではないことを相手にわかってもらい頭を切り替えてもらう必要があることです。英単語の途中でいきなりローマ字を混ぜると通じないことが多いものです。「ここからローマ字ですよ」と相手に注意を喚起するため、英語からローマ字に切り替える部分で、通常より長めのスペースを入れること。ローマ字を送信する場合は各文字のスペースを通常より若干広めにすること、単語は文節でこまめに区切って十分スペースを入れること。

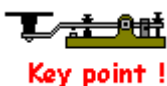
例えば、R_O_M_A_J_I_D_E_O_K_U_R_I_M_A_S_U という具合です。

(_ は短めのスペース __ は長めのスペースを示す)

英語からローマ字への頭の切り替えという意味で、欧文から和文に切り替えるときに ホレ(ツートツーツーツー)と打つのと同様にローマ字に変わることを示す記号があればいいのと思います。そこで提案ですが、たとえばローマ字のROからとって

RO(トツートツーツーツー)というのはHW？

余談ですが、CWで日本人同士自由におしゃべりするにはやはり和文モールスに勝るものはないでしょう。和文モールスに慣れれば、まるで話し言葉のように自然にモールスでおしゃべりができてしまいます。(車を運転しながら和文ラグチューを楽しんでいるOMさんもたくさんいます！) そういう意味で和文モールスはわが国の先達が完成させた誇るべき文化であり、欧文モールスも和文モールスも楽しめる我々日本人は欧文しかできないモールスの母国の人たちよりも恵まれていると思うのです。「日本人なら和文を使え」と打ってこられる和文OTには閉口しますが、「日本人なら和文も嗜(たしな)む」CWマンを目指していただきたいと思います。Hi!



Key point !

ローマ字はスペースを十分とろう

ミスコールを訂正してもらいたいけど...

相手のOMさんが気がついてくれない。こんなときは、コールを繰り返すだけでなく、符号のテンポを変えてみます。JA1QRVなのにJA1QRUと間違えられたならJA1QRのあとちょっと間をおいてVを打ちます。[de JA1QR_V_QR_V_HW?]くらいに簡潔に返すことです。長々と[my call is not JA1QRU but JA1QRV...]などとやると反って相手を混乱させる場合があります。簡潔に返してまだ気がつかない場合は、間違っている部分の符号だけ速度を極端に落として見ます、リズムが急に変わると居眠りしているOMさんもハッと気がつくというしかけです。Hi

間違っている部分を連続して送ってみるのも注意を喚起します。

例えば、[de JA1QR_V_VVVV_HW?] という具合です。

名前やQTHの場合も同じです、意識的に字と字の間隔を空けるようにします。例えば「HIRO」というハンドルの人であれば「NAME IS H_I_R_O」という風にする事で何度も相手局から「AGN PSE」とやられないで済みます。「NAME IS * * *」「QTH IS * * *」の* * *は意識して字と字の間隔を広げます。裏を返すと自分が聞きづらい符号の送信のされ方は、相手にとっても聞きづらいわけです。(注: QTHのあとのISは本来不要ですが、慣例として入れる場合が多い)



Key point !

相手の注意をひくにはリズムを変えてみる

交信中に電話が...どうしよう

アクティブにオンエアしているとよく経験します。

自分が送信中に電話がかかってきたときは、単に NW TEL AS AS (または QRX QRX) で送信を中断して電話に出ればよいですね。(5分くらい待ってくださいという場合は QRX 5MIN となります。AS はAとSを続けて打ちます。)

相手が送信中に電話がかかってきたら、「ツー」と送信してBK(ブレーク)を試みます。相手がQSK(フルブレークイン)なら、あなたのBKに気が付いてちょっと聞き耳をたてるはずですが、そのタイミングにBK HR TEL TEL QRX QRXとでも打てば、「ああ 電話だな」とわかってもらえるでしょう。

もし、相手がQSKでない場合はあらかじめ電話に出て、電話の相手に「いま交信中だから後で掛けなおすと」伝えましょう。



Key point !

AS = ちょっと待って! (急用ができたとき)

メールアドレスを教えたいけど...@ってどう打つの？

@は英語でアットマークと言いますからCWでは at でOKです。「私の E-mail アドレスは JO1ZZZ@JARL.COM です」の場合なら My email address is jo1zzz at jarl . com となります。



Key point !

@ = at

コンディションが急変...どうする？

調子よく交信をしていたのにコンディションが急変して相手の符号が聞き取れなくなってしまうことがあります。こういう場合は早々にQSOを切り上げましょう。相手が確認できないほど空中状態が悪化した場合は、NW BAD CONDX HR SA 73 (こちらコンディションが悪くなったのでファイナルを送ります)

あるいは NW UR RST 239 239 SO 73 (あなたの信号はRST 239なのでファイナルにします) といった内容で簡潔に理由を告げて73を送ればよいでしょう。(Rは3以下になるとゆっくり交信できる状況でないことが相手にもわかります)



Key point !

CU IN BETTER CONDX
コンディションの良いときに再会しよう

相手が弱すぎて取れないとき

CQを出して、相手の方に呼んで頂いているのは分かるのですが、どうしても内容が取れない場合、どうしたらよいのでしょうか。電話ならご丁寧に「チョット厳しいようなのでまたお願いします。ありがとうございました。」と言うんでしょうが、

CWでは簡単に、

UR RST 229 SRI 73 CUL

などとRSTを正確におくれば、あなたの状況が相手に伝わるはずですが、229でも139でも取れないことは、一目瞭然です。



Key point !

R3以下のレポートを
もらったら早めにファイナル

パイルになってしまった...うれしいけどどうしたら？

最近ではCWを始める人が減りましたので、CWデビューしたばかりの局は各局からのラブコールを浴びることになります。おもいきってCQを出したもののたくさんの局からコールをされてパニックになりリグのスイッチを切ってしまったという方もいました。複数からパイルを受けるなんてなかなか経験できません、呼んでくれた局に感謝しつつつきばきとさばけるようになりたいですね。

コールサインが重なって完全にコピーが出来なくても、コールサインの一部だけでも聞き取るように集中します。たとえば、ラストレター Xだけでもコピーできたとすれば、X? AGN BK と打ち、Xの付く局のみ指定してスタンバイすれば今度はXの付く局だけが呼んできます。ここでルール違反をして指定以外の局が呼んでくれることがあります。その局がいかに強力であっても指定無視の局に応答してはなりません。それをやってしまうと、指定無視が氾濫して収集がつかなくなるばかりか指定を守って待っていた局は嫌気がさして二度と呼んでくれなくなります。

また、コールのかなりの部分取れた場合、例えば JO1ZZ までコピーできたのなら、類似コールの局が呼んでいることはまずありませんので、JO1ZZ? UR 599 BK とレポートまで送るとスマートです。ただし、最終的にコールが確認できていないうちは送信は短めにして早めに相手に返してコールサインを確実にコピーするようにしましょう。



Key point !

パイルを受けたら
一部分でもコピーして返答する努力を

質問されたみたいでもよくわからなかった...だまってる？

なにか聞かれたけれど質問内容がよくわからないときは、想像力を働かせて答えるか、相手の質問のなかにあった単語を引用してそのまま聞き返してみましょ。

例えば、相手が What kind of key are you using? と質問しているのですが KEY と ? しかなかった場合。聞き取れた単語を使って KEY? BK (キーがなんでずって? ショートブレーク) と返してみましょ。あるいは多分 KEY のことを質問しているのだなと想像したなら、MY KEY IS * * * と答えてみます。もし、相手が別の回答を期待しているなら、さらに質問をしてください。



Key point !

わからないときはオウム返し

妨害を受けた

交信中ビートをかけたりして妨害する局は絶対に相手にしないこと。相手になると調

子に乗って余計に妨害をするのがそういう連中の特徴ですから、何食わぬ顔で交信を続けましょう。交信が不能になるほど妨害波が強い場合の裏技もありますが、それは紙上では書けません。Hi



Key point !

妨害は無視する

呼んだけど応答がない...原因を考えよう

コンディションが悪いわけでもない、パワーも出ている、アンテナの SWR も正常、自分の信号は物理的には届いているはず、なのに相手が応答してくれない場合は、次の理由が考えられます。

- 1) 自分の周波数がずれていて相手の受信周波数範囲に入っていない。(自局 RIT の切り忘れ、ゼロイン操作未熟、相手のフィルターが狭すぎる)
- 2) 相手の受信周波数がずれている。(相手局 RIT の切り忘れ)
- 3) スプリット指定に気が付かずオンフレで呼んでいる。
- 4) 相手のブラックリストに載っている。(以前その局の指定無視、交信妨害などをした、符号があまりに汚い場合など)

相手が原因と疑う前に、我に返って見直してみましょう。



Key point !

自分に原因がないかチェックしよう

ゼロインの方法について

CW リバース機能というのがあり、ノーマルの状態のトーンとリバースの状態のトーンが同じになるように周波数をセットすると相手局にゼロインできるリグがあります。しかし、CQ 局にゼロインしようとしてこの操作をやっている内に CQ が終わってしまうことがあります。

ゼロインすることは重要なことですが、50Hzの超狭帯域DSPを入れた状態でCQをだす局はいませんから、最初からピッタリ周波数を合わせるのにそんなに神経を使うことはないと考えましょう。(通常CQを出す側は多少ずれて呼ばれることを念頭に入れて、応答が無い場合はCWフィルターを広げてみたり、RITを回してみたりするもの

です。)

500Hz以下のCWフィルターを入れた状態でSが一番強くなるトーンで呼べばおそらく ± 100 Hz程度に収まっているはずです。

コンテストなどではゼロイン操作の暇など無いですから、自分が使うトーン(ピッチ)を決めて、ゼロインのピッチを体で覚えるしかありません。

最近ではゼロインをLEDで知らせてくれる機能や、ボタン一つで自動的にゼロインしてしまう機能を備えたリグもできました。また、パソコンのサウンド機能を利用したオーディオスペクトラム表示フリーソフトを使えば受信音と自局のサイドトーンのスペクトラムのピークを一致させればゼロインが確認できます。(別項のCWソフト紹介参照)



Key point !

ゼロインは体で覚える

SSBからCWに切り替えたら相手を見失ってしまった

市販リグは機種によって表示している周波数が運用モードを切り替えたときに

1. キャリアの周波数は変わらずに表示周波数が変わるタイプ
2. 表示周波数は変わらずにキャリア周波数が変わるタイプ

があります。

50MHzで運用していると、移動局がSSBからCWに切り替えてそのままQSOすることが多いのですが、1のリグだとモードをSSBからCWに切り替えてもダイヤルはそのままCW信号を受信できます。2のタイプのリグですとCWに切り替えた瞬間信号を見失ってしまいます。キャリアがシフトする分ダイヤルをちょっと回して受信可能になります。

IC-756、IC-756PROは2のセッティングでしたが、ユーザーからの要望でIC-756PRO2より周波数の表示方式が選べるようになりました。FT-1000MPは設定で表示方式が選べるようになっています。自分のリグがどういう動作をするのか確認しておきましょう。



Key point !

自分のリグを良く知ること

ウェイトコントロールってなんですか？

CWばかりやっていると運動不足でウエイト調整？ いえいえここでは別の意味です。モールス符号の短点と長点のマーク比率は1:3と決まっていますが、長短の比は、毎分100字を超えたあたりから、少し長点を長めに打つと、聞いた感じが良くなります。これを長短のウエイト調整といいます。

1:3.5 は少し長すぎるかもしれませんが、エレキーだと1:3.2 くらいが適当かもしれません。(これは好みの問題ですが)

100字以下は、きちんと1:3を守ったほうが聞いた感じが良いでしょう。

バグキー使用局でよく聞かれる1:5以上の極端な符号は、2 - 3MHz台の漁船のプロからでたなごりで、空電がバサーと被ってきた瞬間の受信に対する悪影響を防ぐ意味があります。逆に空電の影響が無い陸上有線電信のプロは長点が短くなる傾向だそうです。

また、短点マークとスペースの比率を変えるウエイト調整もあります。スペースの比率を若干短くすると、通称『ネバリ』という現象が出てきて、例えば、符号『S』が『トト』でなく『ロロ』になり、特に DX の際に非常に聞き取りにくい符号になるため、注意が必要です。バグキーのウエイトを重くしている人に多いようです。



ウエイトコントロールはほどほどに

DO? ホレ?

欧文で質問する場合、

DO YOU ...? と書くのが文法上正しいのでついDO...と打ちがちですが、日本の局同士の場合「DO」は和文の「ホレ」と混同してしまって、和文ができる局は頭が和文受信に切り替わってしまい、肝心の欧文の内容を聞き逃すことがよくあります。

これを避けるには、DとOのスペースを気持ち広めにするか、DOから始まらない表現を使う工夫をすることです。

たとえば DO YOU...? のかわりに WILL YOU...? が使えないとか。疑問文の文法を無視して普通文の最後に「？」をつけるとかです。

QSL

これはフォーンでも同じなので大丈夫と思いますが、念のため。

コンテストでQSLと打つのは『QSLカードの交換をOKした』の意味ではなく、『ナンバーを確認した』という意味です。

CWコンテストではQSLカード交換の約束は通常しません。

QSLL

はコンテストでは使いませんが、DXとのショートQSOの中で“QSLL”と打ってくることがあります。これは『君のQSLカードが届いたら折り返し送るよ』という意味で使

われているようです。

QRNN、QRMM、QRLLなど

QSLLが出たついでに、“QRNN” “QRMM”も覚えておくの良いでしょう。いづれも意味を強調するときに使います。激しいQRNがあるとき、激しいQRMがあるときにそれぞれ “QRNN”、“QRMM”と打ちます。ただ、激しいQSBの時に“QSB”という表現はなぜか使わないようです。(HVY QSB あるいは DEEP QSB などをと表現する)

また、ゼロインで周波数チェックの意味で“QRL?”を繰り返し出されたり、周波数の妨害を受けた場合に 単に“QRL”ではなく“QRLL”と打って『使ってます!』という意味合いの強調として使われる場合があります。“QRL?”に対して「使ってるよ」という意味で 短く“L”だけを打つ場合もあります。それに気づかないでそこでCQを出したりしたら、今度は“L”のあとに“ID”が付いてきますので気をつけてください。Hi

QSO B4

本格的にパソコンによるコンテストログを使いだせばパソコンが重複チェックをしてくれるので遭遇しなくなる問題ですが、手書きログでCWコンテストに出始めた頃に、うれしくなって呼びに回っていると、これを知らないと恥をかくことになります。QSO B4 の B4 とは Before のことで、『あなたとは既に交信したよ』という意味です。

C

C (チャーリー)にはYesという意味があります。コンテストなどで、相手がコールやナンバーの確認をしてきて、相手のコピーが正しいときに、『あなたのコピーどおりですよ』という意味で“C”とだけ返してみましよう。これが小気味よく通じたらCWの面白さの一端を実感できる瞬間です。

使用例:(JO1ZZZ がランニング中、JA1QRS がコールした場合)

```
JO1ZZZ : CQ TEST JO1ZZZ
JA1QRS : DE JA1QRS
JO1ZZZ : JA1QRS UR 599 BK
JA1QRS : BK UR 599 *
JO1ZZZ : * ?
JA1QRS : C
JO1ZZZ : TU DE JO1ZZZ TEST
```

モールスは「ヌヘヘ」笑う?

アマチュア無線の中で、CWで交信中に笑ったり、笑い声で話すようなときに、話の途中に、「HI」を入れて、笑っているよと云う表現に使うのは、皆さんご承知の通りです

が、それでは何故、「HI」を使うか。アメリカでの話ですが、始めは、優雅に「HO HO HO HO」(日本語なら、ほ ほ ほ です。)笑っていたのです。当時使っていた、アメリカン・コードですと「H」は「……」「O」は「・・」です。Hは今と同じですが、Oの「・・」は今の「I」とも違うし、Eが2つでもありません。今の3短点の真ん中を抜いたくらいの微妙な間隔だったようです。当時の「O」が今のモールス・コードでは、変わってしまったのに、笑い声だけは、文字で残すと「HI」として、残ったようです。

普通は「HI」と打ちますが、この「I」の間隔を少し広げて、打ったか、アメリカンコードらしく短点を少し広げて打つのを欧文で「H E E」あるいは、和文で「ヌヘヘ」と聞こえます。和文をやっている方の中には「へへラ へラ」と笑う人も居ますが、Hi

Wのオールドタイマーが「E E K」打ってくる(聞こえる)ことがあります。これも「OK」をアメリカン・コードで送ってきているのです。

今でもよく使っているアメリカンコードを「&」を示す「・・……」です。いまのコードですと「ES」と聞こえます。(アメリカン・コード表は、CQ出版社の「モールス通信」や「電信教則本」参照)

ついでに、「ホレ」と「ラタ」

どちらも2文字ではなく、一つの符号として続けて打ちます。運用規則などでは文字の上にバーがあって、続いた一つの符号であるとはっきり説明しています。

「ホレ」は「-・ - - -」と言う符号。「ラタ」は「…… - ・」という符号です。この辺りは、分けて打つ人はいないですが、送信の終わりに打つ「KN」を分けて打っているのを最近よく聞きます。これも一つの符号で、和文で云えば、「ル」に当たる符号「-・ - - ・」で「- - - - ・」ではありません。

「ホレ」は、電報の宛先と本文を分ける時に使う符号です。何時からかわかりませんが、和文コードを使うときに誰かが使い出して、「ワブン」と打つより簡単だから、みんなが使うようになったのでしょう。ですから和文の交信相手を指定するCQとして「CQホレ」が慣例的に使われているのです。(日本語通信を指定するQ符号としてQOD6がありますが、知識として知っていれば良いでしょうが使うことまずありません)

欧文の「BT」は、区切り、符号としても使いますが、「ホレ」を連発するものではありません。

「ラタ」は和文の通報の終了符号でもあり、「訂正」符号でもあるのはご存じの通りです。ですから、途中であまり何回もこれがでてくるのは、練習不足です。

HH以外の訂正符号があるのですか？

欧文の訂正符号はHH(………8短点連続)ですが、欧文でも和文訂正符号である「…… - ・」を使う海外局もいます。HHはどうにも歯がゆくて、あせると訂正符号の訂正符号を出す羽目になります。そのためか実際の交信でHHで訂正しているのはあまり聞きません。慣例的によく使われるのが「I I」「………」です。その次に多いのが先ほどの「…… - ・」。

Best 73はおかしい？

「CW略符号表」には、73は< Best Regards >と出ています。

< Best 73 > といえば < Best Best Regards > になって変だと目くじらをたてるOMさんもおられます。そういう方にはVY 73をお勧めします。

CWで打つ < Best 73 > はリズム感があっていいじゃないかという意見もあります。

それでは、VY 73 ES GL

事務局編